



ろうさい連携だより

2016.11
第24号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します



10月11日～14日の緩和ケア週間では、講演・ハンドケア体験・スタッフによる合唱等を行いました

目次

- p1 診療の現場から
- p3 診療科の紹介
- p3 人事異動について
- p4 Topics ●医療連携のつどい報告
- p4 お知らせ
- p4 地域医療連携センターから
- p4 今月の投稿
- p5 東北労災病院外来診療担当表

東北労災病院外来診療担当表 (平成28年10月17日)

科／部門	曜日	曜日					特殊外来・各種教室等		
		月	火	水	木	金	名称	曜	時間
内科	胃腸科	白木 学	浜田 史朗	小島 康弘	浜田 史朗	大原 秀一			
		齋藤 晃弘	玉淵 泰史	近藤 穰	白木 学	小島 康弘			
		齋藤 紘樹	大原 祐樹	半田 朋子	清水 貴文	近藤 穰			
	内視鏡	上部	大原 秀一	大原 秀一	大原 秀一	大原 秀一			
		下部	浜田／近藤／大原(祐)	北川／近藤／半田／祐津	浜田／祐津／齋藤(紘)	近藤／半田／山川			
	肝臓科	小島／祐津／清水	小島／白木／清水／斎藤(紘)	白木／齋藤(晃)／玉淵／大原(祐)	小島／齋藤(晃)／大原(祐)／祐津	白木／半田／斎藤(紘)			
		小林 智夫	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司	片岡 晃二郎			
	腫瘍内科	山川 暢		山川 暢	小林 智夫				
						丹田 滋(院外新患)14:00～ 院内紹介は問合せて下さい			
	緩和ケア内科	小笠原鉄郎11:00～12:00	小笠原鉄郎9:00～12:00	小笠原鉄郎11:00～12:00	小笠原鉄郎9:00～12:00	小笠原鉄郎11:00～12:00	糖尿病教室	月～金	15:30～16:30
	糖尿病・代謝内科	松本雅博／加納隆輔(登録医新患)	加納 隆輔(登録医新患)	中村 麻里(登録医新患)	松本 雅博(登録医新患)	鶴田 藍(登録医新患)	循環器科内科の院内紹介は火曜日以外	月・火・水・木・金・土・日・祭	13:00～
	循環器内科	田中 光昭(新患)	佐治 賢也 (他院紹介・急患のみ)	東北大学病院医師	田中 光昭(新患)	東北大学病院医師			
		川名 暁子(再来)		応援医師(再来)	佐治 賢也(再来)	川名 暁子(再来)			
	高血圧内科	金野 敏	宗像 正徳	宗像(第1・3・5)、金野(第2・4) (院外新患のみ)	宗像 正徳	金野 敏	喘息外来 (予約制)	月	14:00～ 15:00
	呼吸器内科	三浦 元彦	榊原 智博	田代 祐介	三浦 元彦	大塚 竜也			
		田代 祐介	大塚 竜也	阿部 武士	滝田 克也	榊原 智博			
			谷津 年保		谷津 年保				
	SAS外来		佐藤 研 (完全予約制、14:00～16:00)				女性外来 (隔週予約)	水・木	14:00～ 15:30
呼吸器外科		保坂 智子				保坂 智子	再来は予約制		
心療内科		田口 文人	田口 文人	田口 文人	田口 文人	田口 文人	午後診(すべて予約制) 乳児健診(及川)：月曜14:00～ (小島)：木曜14:00～ 予防接種：火曜14:00～ 神経外来(山本)：第2・4水曜14:00～ 腎臓外来(千葉)：14:00～		
小児科		千葉 靖	千葉 靖	高柳 玲子	高柳 玲子	千葉 靖	※乳腺外科：火曜・金曜の診察は 午後のみで予約制		
		高柳 玲子	沼田 美香	沼田 美香	小島 三千代	沼田 美香	胆石外来：月・水・木 ヘルニア外来：火・水・木 ストーマ外来：火曜午後予約制		
		及川 智子		及川 智子		小島／及川			
		片寄 友	徳村 弘実	野村 良平	徳村 弘実	武藤 満完			
				西條 文人	安本 明浩	片寄 友			
外科	消化器外科		高橋 賢一						
	大腸肛門外科		羽根田 祥						
	乳腺外科	豊島 隆	※豊島 隆(新患のみ)		豊島 隆	※柴原 みい(新患のみ)			
	血管外科			東北大学医師13:30～ (完全予約制、第2のみ)					
整形外科	関節	信田 進吾	井上 尚美	信田 進吾	井上 尚美	信田 進吾			
		田中 稔	田中 稔	田中 尚美	小河 裕明	奥野 洋史			
		奥野 洋史	小河 裕明	田中 稔	藤谷 晃亮	佐藤 諒			
		黒川 大介	黒川 大介	小河 裕明	三浦 慎次郎				
		守屋 秀一	藤谷 晃亮	黒川 大介	佐藤 諒				
		佐藤 貴也	守屋 秀一	奥野 洋史					
			三浦 慎次郎	藤谷 晃亮					
				守屋 秀一					
	脊椎		日下部 隆		※日下部 隆	日下部 隆	※脊椎外科：第2・第4木曜は 再来のみ対応		
			中村 豪		※中村 豪	中村 豪			
脳神経外科			長嶺 義秀(午後のみ)						
脳卒中科		柏原 茂樹	柏原 茂樹		柏原 茂樹	柏原 茂樹			
老年内科				佐藤 琢磨(第1・3週のみ)			完全予約制		
皮膚科		國方 なぎさ	矢崎 緑	國方 なぎさ	國方 なぎさ	國方 なぎさ	受付10:00まで		
		谷田 宗男	武田 佳奈	谷田 宗男	武田 佳奈	谷田 宗男	月・火・木午後検査(予約制)		
泌尿器科		阿部 優子(新患)	竹本 淳(新患)	浪間 孝重	後藤 拓郎(新患)	新患担当医			
産婦人科		浪間 孝重	浪間 孝重	竹本 淳	竹本 淳	阿部 優子	完全予約制		
眼科		東北大学病院医師	東北大学病院医師	東北大学病院医師	東北大学病院医師	東北大学病院医師			
		佐藤 肇(午前のみ)	—	佐藤 肇	—	佐藤 肇(10:30から)	月・水・金 午後検査 (予約制)		
		鈴木 哲章	—	鈴木 哲章	鈴木 哲章(午前のみ)	鈴木 哲章	手術日 火・木		
耳鼻咽喉科		橋本 和軌	橋本 和軌(午前のみ)	橋本 和軌	—	橋本 和軌			
		大山 健二	大山 健二	—	大山 健二	大山 健二			
		野村 和弘	野村 和弘	野村 和弘	野村 和弘	野村 和弘			
		小澤 大樹	小澤 大樹	野村 和弘	小澤 大樹	小澤 大樹			
		生島 寛亨	生島 寛亨	小澤 大樹	生島 寛亨	生島 寛亨			
		清水 佑一	清水 佑一	生島 寛亨	清水 佑一	清水 佑一			
		—	—	清水 佑一	—	—			
リハビリ科		小松 恒弘	心リハ外来	心リハ外来	小松 恒弘	心リハ外来	術下免疫療法：木曜午後(完全予約制)		
放射線治療科				—					
リウマチ科		白田 佑子	白田 佑子	—	白田 佑子	白田 佑子	プレースクリニク 毎週金曜日(15:00～)予約制		
		—	畠山 明	畠山 明(新患)	畠山 明	畠山 明	完全予約制(院内・院外) 新患は電話で予約		
		加藤 一郎	加藤 一郎(新患)	加藤 一郎	非常勤医師(第1・第3週)	加藤 一郎			
歯科		太田 宗夫	—	—	—	太田 宗夫			
		塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	完全予約制		
口腔外科		田沼 紫乃(午前のみ)	田沼 紫乃(午前のみ)	—	—	—	完全予約制		



独立行政法人 労働者健康安全機構 東北労災病院

〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21
TEL.022-275-1111(代表) FAX.022-275-4431
ホームページ http://www.tohokuh.rofuku.go.jp

地域医療連携室

TEL.022-275-1467(直通) FAX.0120-772-061

病理診断科は常勤病理医2名の体制で、外科病理（生検、手術材料、術中迅速診断）、細胞診、剖検に当たっております。

2015年の業務量は、生検・手術材料が4477件、術中迅速診断が157件、細胞診2976件、剖検16体でした。

小さい検体からも可能な限りの情報を得るべく階段切片を作製するなど努力しております。また、診断に難渋する症例は、国立がん研究センターのコンサルテーションシステムなどを利用し全国の各臓器の専門家にご協力いただいております。

そして検体採取から診断に要する日数についても強く意識して短縮に努めています。

さて、病理学の分野でも多数の新たな疾患概念の確立、診断のアルゴリズムの変容がなされています。また薬剤選択など治療と直結する新しい病理学的検査（コンパニオン診断）が広がりつつあります。新薬の中には病像、組織像に大きな変化を生じさせるものが増え、チェックすべき所見も増加しています。

例えば新たな疾患概念として最近認識が広がりつつある「胃底腺型胃癌」が挙げられます（図1）。

このタイプの癌は萎縮のない胃底腺粘膜に生じます。以前はカルチノイド腫瘍と診断されたり、癌と診断されずに放置されておりました。この像のままで粘膜下組織に浸潤したり、他の組織型への移行を示したりします。当院胃腸科は微小な胃癌の診断のみでなく稀な組織型の癌のチェックにも優れていると感じております。この胃底腺型胃癌に関しては、雑誌「胃と腸」の第50巻第12号2015年の特集号に当院胃腸科の論文が載っております。ご参考にしていただければ幸いです。

一方、治療の進歩も明瞭です。外科的治療ができなかった乳癌の中に前胸部・側胸部全体に広がった剖検例がありました。

図2がその肉眼所見です。ごつごつとした「岩」の塊のように見えます。一説では癌の語源が「岩」であり、それも「乳癌」であったとされておりますが、得心させられます。しかし、以前はこの図ほどの広がりを示す前に、亡くなられておりました。し

かし、治療法の進歩が転移や転移先での増殖の抑制に目に見える形で働いたのだと思われます。その間に原発巣の拡大が徐々に進みながらも胸壁を貫く胸腔への浸潤（癌性胸膜炎に至る一型）までは起きませんでした。治療効果の限られていた時代とは異なる進展パターンに驚かされます。腫瘍内科、乳腺外科、皮膚科の協力の結果でした。

また関節リウマチで、生物学的製剤の効果が著明で、組織像からRAと断定的な診断することに躊躇させられることがしばしばとなりました。

図3は、生物学的製剤の使用される前の症例と使用された後の症例の組織です。後者では炎症性細胞浸潤一つをとっても著減していることが一目瞭然で、組織像から断定的な診断を下すことに迷われます。

ところで病理関連の依頼書には、基本的な情報を記載することが望まれ、過ぎた簡略化・省略は誤診のきっかけとなります。図4は頸部リンパ節の穿刺吸引細胞診ですが、臨床的には膀胱癌（形質細胞様型）の転移と結核性リンパ節炎が疑われておりました。

パパニコロー染色で印環細胞様の異型細胞が認められました。形質細胞様型の膀胱癌では印環細胞垂型の混在が約50%に見られますので、膀胱癌の転移と胃など他臓器の癌の転移を臨床的に鑑別してもらい、膀胱癌の転移という結論になりました。形質細胞型という組織型の記載があることが診断のための重要な情報でした。

また病理側も手を抜いてはなりません。当院では、クローン病や潰瘍性大腸炎の多くの症例を内科、外科とも治療しています。クローン病の生検では、肉芽腫の検索のため、少なくとも20枚の連続切片で検討していますが、これを10枚にしている施設があります。しかし、私どもの経験では10枚だと見逃しの恐れがあります。もし10枚の連続切片で診断されている場合には、病理医に20枚以上の連続切片での検索を要請なさるようお勧めいたします。

また、臨床的には癌であるにも関わらず、生検ではそれが確認されない場合があります。その場

合には、図5にお示ししましたように、階段切片で検索すると癌が確認できる場合があります。

癌の場合に限らず、経気管支肺生検での肉芽腫の検索などでも、階段切片で確認されることがあります。予期した病理診断が得られない理由に検体内での病変の不均衡分布がありますので、病理医に階段切片での検討を要請なさることをご遠慮なさってはなりません。

当院病理診断科の現況の紹介をさせていただきました。病理診断のセカンドオピニオンにも対応させていただいておりますのでご利用ください。

（文責 病理診断科部長 岩間憲行）

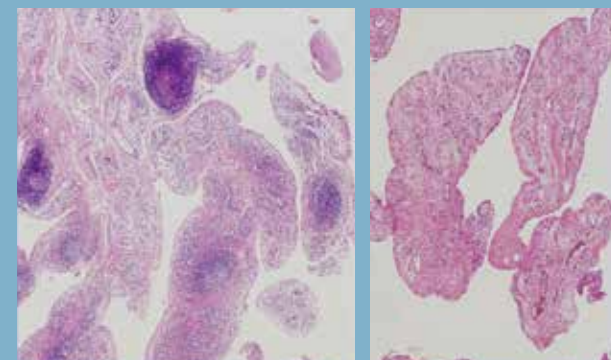


図3 関節リウマチの滑膜。左は生物学的製剤の使用前の症例。右は使用後の症例。

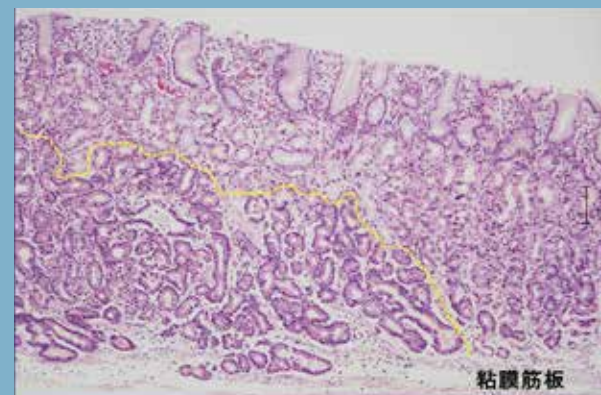


図1 胃底腺型胃癌。黄色の点線の下部が癌。通常の腺癌に比べ、細胞異型の多様性に欠ける。

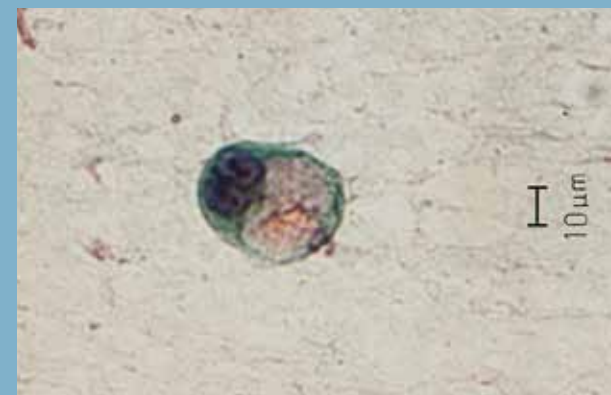


図4 頸部リンパ節の穿刺吸引細胞診。胞体内のややもやした淡紅色の成分が粘液で、核を圧排している（印環細胞癌）。



図2 前胸部・側胸部に広がっている乳癌。白色は塗布した薬品の色。

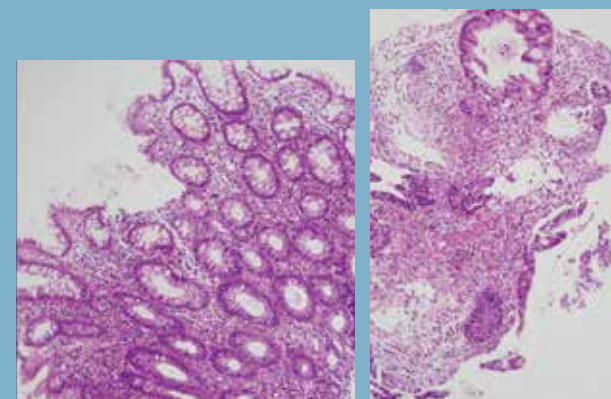


図5 大腸の生検。左は初回作製の組織像で、癌は認められない。右は階段切片の1枚で、腺癌。

整形外科

皆様には平素より病診連携等でお世話になっております。今回は当院整形外科をご紹介申し上げます。

整形外科は現在12名の医師が担当し（後期研修医1名）、整形外科の診断・治療の対象となる運動器疾患は部位別・疾患別に変性疾患・外傷の分野に分かれていますので、当院整形外科も4つの部門に担当医が分かれて診療に当たっています。各部門をご紹介申し上げます。

脊椎・脊髄班は日下部脊椎外科部長、中村副部長が担当し、頸椎・胸椎・腰椎の変性疾患・外傷の手術を行い、月・水曜が手術日です。外来診療は手術日以外の火・木・金曜日に行っていますが、脊椎疾患は診察に時間がかかることが多く、せっかくご紹介頂いても患者さんの待ち時間が長くなることもしばしばです。

四肢関節・外傷班は井上関節外科部長・人工関節センター長、小河副部長、藤谷医師、三浦医師が担当し、人工股関節（年間145件）・膝関節（年間140件）、上肢・下肢の骨折手術を行い、月・水・金曜が手術日で、それ以外の曜日が外来診療になっています。

スポーツ整形外科班は田中スポーツ整形外科部長、黒川医師、守屋医師が担当し、肩・膝等のスポーツ障害・外傷の手術を行い、木・金曜が手術日です。楽天イーグルスのチームドクターも務めており、月・火・水曜日の外来日には東北楽天イーグルスの選手達も診

察に来られるので、夕方までに外来診療が終わらないこともあります。

上肢・関節・末梢神経班は信田整形外科部長、奥野副部長、佐藤（貴）医師が担当し、肘・手の関節・末梢神経障害、外傷、人工関節の手術を行い、火・木曜が手術日です。月・水・金曜日が外来診療日となっています。

このように各部門・各医師ともに、連日手術・外来診療の予定がびっしりと組まれており、救急当番医も日中・時間外と担当医を決めています。120～130床の入院患者さんと1日あたり150～200名の外来患者さんを診療し、時間外外来患者数は100～110名/月、救急車搬送受け入れ患者数は60～70名/月、月平均外来患者数は3406名、月平均新患患者数は379名、月平均新入院患者数は119名、平均病床稼働率は90%です。2015年度の年間手術件数は1971件、そのうち全身麻酔件数は1610件、腰椎麻酔が42件、他が局所麻酔等となっています。

皆様より患者さんを御紹介頂く場合には、やはり事前に地域医療連携センターを通して予約して頂くのが最も円滑に進むと思われますが、手術を要すると思われる患者さんを中心にご紹介いただきたく存じます。そして、脊椎疾患や末梢神経障害は外来診療での鑑別診断に診察や検査で時間がかかることが多いため、特に予約をいただいた上で受診していただくのが良いと思います。

以上、簡単ではございますが、当院整形外科の紹介をさせていただきました。今後とも整形外科をよろしくお願い申し上げます。

（文責：整形外科部長 信田進吾）

人事異動について

採用

平成28年7月1日付
肝臓科 片岡晃二郎



●専門分野 肝臓疾患
急性肝障害、
自己免疫性肝疾患

麻酔科 太田 卓尚

●専門分野
手術麻酔

平成28年9月1日付
耳鼻咽喉科 野村 和弘



●専門分野 耳鼻咽喉科一般、
鼻内視鏡手術

●一言 紹介された患者さんは丁寧に手術を行います。
術後は紹介元と当科で治療を継続致します。

放射線診断科 高橋 祐輝

平成28年10月1日付
耳鼻咽喉科 清水 佑一



●専門分野 耳鼻咽喉・
頭頸部外科学

●一言

満足いく診療を
目指します。

整形外科 佐藤 諒

転出

平成28年6月30日付

眼 科 浅野 俊文
麻 酔 科 村木 大志

平成28年8月31日付

リハビリテーション科 原田 卓
耳 鼻 咽 喉 科 織田 潔
放 射 線 診 断 科 榊原 宏幸

平成28年9月30日付

耳 鼻 咽 喉 科 田畑 摩純

Topics

医療連携のつどい報告

平成28年7月28日（木）

江陽グランドホテルにて東北労災病院 医療連携のつどいが開催されました。

当日は各医療機関及び訪問看護ステーションの関係者の皆さまに多数ご参加頂きました。特別講演においては東北大学加齢医学研究所の岡田克典教授による「東北大学における肺移植の経験」、当院看護師による「高齢認知症患者への糖尿病看護～その人らしさを支える多職種連携～」、「認知症患者の家族支援」、当院救急外科武藤満完医師の「当院の救急体制について」、当院循環器科部長田中光昭による「東北労災病院 循環器内科の現状」と題した講演が行われました。講演後は意見交換会が催され、大変盛況となりました。お忙しいところご参加くださいました先生方に御礼申し上げます。



病院長挨拶



岡田克典教授による講演



田中循環器科部長



武藤救急外科部長



お知らせ

市民公開講座

日 時 11月19日（土）10:00～11:30
会 場 台原老人福祉センター（地下鉄南北線 台原駅下車）
講 演 「あなたが、がんと言われたら」
講 師 消化器外科部長 片寄 友
がん看護専門看護師 小田島綾子

地域医療連携センターから

◆月別紹介患者数

	紹介患者数	逆紹介患者数		紹介患者数	逆紹介患者数
平成28年4月	1,120人	826人	平成28年7月	1,248人	698人
平成28年5月	1,127人	735人	平成28年8月	1,192人	786人
平成28年6月	1,411人	883人			

今号の投稿

パラリンピック

リオのパラリンピックを見て、ふと思いついた。この舞台は病院と同じではないか。患者さんは選手。コーチや家族みんなが懸命な応援とサポートがなければ出場権は得られない。義手義足などスポーツ補助具の進歩はすごいが、手作業は大変な手間暇であり高等な技術のようだ。関係者の血と汗の結晶である。他方、患者さんの治療には社会的支援は必須であり、施設を要し医療者側は長年の経験による高い技術を提供する。しかし、病気と向き合う患者が主人公である。私たちは最後まで応援し、結果祝福する。これは高等な社会のありようである。ところで、いじめは一人一人の心に潜んでいる差別や優位欲が原因であろう。しかし、加害者に限らず最近のメディアは一度悪者を標的とする徹底した叩き、女優の魔女狩りをする様相は目を覆うばかり。元来、日本人は、心優しく、判官最良で、過度なたたきほしなかった。SNS、ネットは、批判はエスカレートして、常軌を逸し同調しないものには容赦なく批判の嵐を浴びせ続ける。弱気ものに共感し早く治して更正させて応援するのだ。パラリンピックの精神を心に刻もう。

ヒマジンの独り言